掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 １節 回航・えい航費 P5-1-29			施工単価コードの追加

条件	条件名称	条件値	条件内容
B	被えい航船供用損料	４０	台船　供用損料：３００ｔ積
		４１	〃　：４００ｔ積
		４２	〃　：５００ｔ積
		４３	〃　：６００ｔ積
		４４	〃　：７００ｔ積
		４５	〃　：１，０００ｔ積
		４６	スパット台船　供用損料：水深５ｍ用
		４７	船外機船　供用損料：ＦＲＰ製５．５ｍ
		４８	クレーン付台船　供用損料：クローラークレーン　３５～４０ｔ吊
		４９	〃　台船　３００ｔ積
		５０	〃　クローラークレーン　４５～５０ｔ吊
		５１	〃　台船　５００ｔ積
		５２	〃　クローラークレーン　８０ｔ吊
		５３	〃　台船　７００ｔ積
		５４	〃　クローラークレーン　１００ｔ吊
		５５	〃　台船　１，０００ｔ積
C	船団長	実数	人数を実数で入力
D	高級船員	実数	人数を実数で入力
E	普通船員	実数	人数を実数で入力
F	被えい航船船種区分	1	ポンプ浚渫船
		2	グラブ浚渫船
		3	サンドドレーン船
		4	サンドコンパクション船
		5	杭打船
		6	フローティングドック
		7	コンクリートミキサー船
		8	起重機船
		9	クレーン付台船
		１０	ガットバージ
		１１	土運船
		１２	台船
		１３	深層混合処理船
		１４	バックホウ浚渫船
		１５	排砂管設備
		１６	空気圧送船
G	供用日数	実数	供用日数を実数で入力

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 １節 回航・えい航費 P5-1-30		施工単価コード　Ｊ：２：１：０：３：５ 施工単価名称：引船運転費（えい航作業）（就業１６時間）　出力数量：１　単位：式 注意事項 １　適用にあたっては、積算基準（回）３－３－３を参照。 条件　条件名称　条件値　条件内容 Ａ　規格区分　１　鋼Ｄ　３００ＰＳ型 ２　〃　３５０ＰＳ型 ３　〃　４５０ＰＳ型 ４　〃　５００ＰＳ型 ５　〃　５５０ＰＳ型 ６　〃　６００ＰＳ型 ７　〃　７００ＰＳ型 ８　〃　８００ＰＳ型 ９　〃　１，０００ＰＳ型 １０　〃　１，２００ＰＳ型 １１　〃　１，５００ＰＳ型 １２　〃　２，０００ＰＳ型 １３　〃　２，５００ＰＳ型 １４　〃　３，０００ＰＳ型 １５　〃　４，０００ＰＳ型 Ｂ　運転時間　実数　引船の運転時間を実数で入力 Ｃ　運転日数　実数　入力不可 Ｄ　供用日数　実数　引船の供用日数を実数で入力 Ｅ　風浪地域補正　コード　入力不可	施工単価コードの追加

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 １節 回航・えい航費 P5-1-31			施工単価コードの追加

施工単価コード　Ｊ：２：１：０：５：５

施工単価名称	被えい航船運転費（えい航作業）（就業１６時間）	出力数量	１	単位	式

注意事項
１　適用にあたっては、積算基準（回）３－３－３を参照。

条件	条件名称	条件値	条件内容
Ａ	上乗り区分	１	上乗りあり
		２	上乗りなし
Ｂ	被えい航船供用損料	１	揚錨船　供用損料：３ｔ吊　Ｄ
		２	引船　供用損料：鋼製　Ｄ　１００ＰＳ型　４．９ＧＴ　７４ｋＷ
		３	〃　鋼製　Ｄ　２００ＰＳ型　１５ＧＴ
		４	〃　鋼製　Ｄ　２５０ＰＳ型　２０ＧＴ
		５	〃　鋼製　Ｄ　３００ＰＳ型　２５ＧＴ
		６	〃　鋼製　Ｄ　３５０ＰＳ型　３０ＧＴ
		７	〃　鋼製　Ｄ　４５０ＰＳ型　３５ＧＴ
		８	〃　鋼製　Ｄ　５００ＰＳ型　４０ＧＴ
		９	〃　鋼製　Ｄ　５５０ＰＳ型　４５ＧＴ
		１０	〃　鋼製　Ｄ　６００ＰＳ型　５０ＧＴ
		１１	〃　鋼製　Ｄ　７００ＰＳ型　６０ＧＴ
		１２	〃　鋼製　Ｄ　８００ＰＳ型　７０ＧＴ
		１３	〃　鋼製　Ｄ　１，０００ＰＳ型　９０ＧＴ
		１４	〃　鋼製　Ｄ　１，２００ＰＳ型　１００ＧＴ
		１５	〃　鋼製　Ｄ　１，５００ＰＳ型　１３０ＧＴ
		１６	〃　鋼製　Ｄ　２，０００ＰＳ型　１８０ＧＴ
		１７	〃　鋼製　Ｄ　２，５００ＰＳ型　２２０ＧＴ
		１８	〃　鋼製　Ｄ　３，０００ＰＳ型　３３０ＧＴ
		１９	〃　鋼製　Ｄ　４，０００ＰＳ型　４５０ＧＴ
		２０	ポンプ浚渫船　供用損料：Ｄ４２０ＰＳ型　３０９ＫＷ
		２１	グラブ浚渫船（普通地盤用）アンカー方式　供用損料：ディーゼル式Ｄ５.０m
		２２	起重機船　供用損料：５０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２３	〃　７０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２４	〃　８０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２５	〃　１００ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２６	〃　１２０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２７	〃　１５０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２８	〃　１８０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		２９	〃　２００ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		３０	〃　２５０ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		３１	〃　３００ｔ吊　旋回・ディーゼル方式
		３２	交通船　供用損料：鋼製　Ｄ　３０ＰＳ型　３．０ＧＴ
		３３	〃　鋼製　Ｄ　５０ＰＳ型　４．９ＧＴ
		３４	〃　ＦＲＰ製　Ｄ　７０ＰＳ型　３．０ＧＴ
		３５	〃　鋼製　Ｄ　１５０ＰＳ型　１５．０ＧＴ
		３６	潜水士船　供用損料：Ｄ１８０ＰＳ型　３～５ｔ吊　４．９ＧＴ
		３７	〃　：Ｄ２７０ＰＳ型　３～５ｔ吊　７．３ＧＴ
		３８	台船　供用損料：１００ｔ積
		３９	〃　：２００ｔ積

次のページにつづく

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 １節 回航・えい航費 P5-1-32			施工単価コードの追加

条件	条件名称	条件値	条件内容
B	被えい航船供用損料	４０	台船　供用損料：３００ｔ積
		４１	〃　：４００ｔ積
		４２	〃　：５００ｔ積
		４３	〃　：６００ｔ積
		４４	〃　：７００ｔ積
		４５	〃　：１，０００ｔ積
		４６	スパット台船　供用損料：水深５ｍ用
		４７	船外機船　供用損料：ＦＲＰ製５．５ｍ
		４８	クレーン付台船　供用損料：クローラークレーン　３５～４０ｔ吊
		４９	〃　台船　３００ｔ積
		５０	〃　クローラークレーン　４５～５０ｔ吊
		５１	〃　台船　５００ｔ積
		５２	〃　クローラークレーン　８０ｔ吊
		５３	〃　台船　７００ｔ積
		５４	〃　クローラークレーン　１００ｔ吊
		５５	〃　台船　１，０００ｔ積
C	船団長	実数	人数を実数で入力
D	高級船員	実数	人数を実数で入力
E	普通船員	実数	人数を実数で入力
F	被えい航船船種区分	1	ポンプ浚渫船
		2	グラブ浚渫船
		3	サンドドレーン船
		4	サンドコンパクション船
		5	杭打船
		6	フローティングドック
		7	コンクリートミキサー船
		8	起重機船
		9	クレーン付台船
		１０	ガットバージ
		１１	土運船
		１２	台船
		１３	深層混合処理船
		１４	バックホウ浚渫船
		１５	排砂管設備
		１６	空気圧送船
G	供用日数	実数	供用日数を実数で入力

水産基盤整備事業（漁場）設計積算基準(令和６年１０月）　新旧対照表（令和６年１０月１日以降積算基準日適用）

掲載頁

第５章
間接工事費の施工歩掛

１節
回航・えい航費
P5-1-(1)

現行

付属資料－１　回航積算手順

被回航船舶　名称　規格　隻数
回航用引船　規格　曳航時①ノット　独航時②ノット
回航経路等　経路　距離　③　浬　往復、片道の別
回航日数等　時期　／　→　／　（　期）　回航方式　方式

	被回航船舶	回航用引船	摘要
運転時間	④＝ ③/①	⑦＝ ③/① ＋ ③/②	小数１位切上げ
運転日数	⑤＝ ④/16	⑧＝ ⑦/16	小数２位四捨五入
供用日数	⑥＝⑤×1.30＋2	⑨＝⑧×1.30	0.1 未満・・・切捨て 0.1～0.6・・・0.5日 0.6 以上・・・1.0日

(1)艤装費
艤装費＝被回航船舶購入価格⑩ × 艤装費率　（小数１位切捨て）

(2)燃料費
燃料費＝{時間当たり燃料消費量（雑品含む）×運転時間数⑦}× 重油Ａ単価
（{ }は小数１位四捨五入、全体は小数１位切捨て）

(3)労務費

	職種	乗組員	11時間単価	乗船手当	摘要
引船	高級船員	A_1 人	B_1 円	C_1 円	11時間単価は２交代制の場合の労務単価の例による。（第１部第２章１節２－１－２労務単価の補正）
	普通船員	A_2 人	B_2 円	C_2 円	
上乗り	船団長	１ 人	B_3 円	C_3 円	被回航船舶の主作業船のみ
	普通船員	２ 人	B_4 円	C_4 円	

合計
賃金＝（A_1×B_1＋A_2×B_2）×⑨　（小数１位切捨て）
乗船手当＝（A_1×C_1＋A_2×C_2）×⑨　（小数１位切捨て）

(4)上乗費
合計
賃金＝（B_3×１＋B_4×２）×（⑤×1.30）＊　（小数１位切捨て）
乗船手当＝（C_3×１＋C_4×２）×（⑤×1.30）＊　（小数１位切捨て）

＊（⑤×1.30）：（0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を１日として0.5日単位にする。）

(5)損料
合計
回航用引船損料＝（運転損料×運転時間⑦）＋（供用損料×供用日数⑨）
（（　）内は各々、小数１位切捨て）
被回航船舶損料＝供用損料×供用日数⑥　（小数１位切捨て）

(6)保険料　保険金額⑪＝被回航船舶購入価格⑩×51.5/100

被回航船舶船種		基本料率⑫
回航距離	浬	

普通期間保険料
保険料 ＝ 保険金額⑪ × 基本料率⑫ × 回航距離係数

改定

付属資料－１　回航積算手順

被回航船舶　名称　規格　隻数
回航用引船　規格　曳航時①ノット　独航時②ノット
回航経路等　経路　距離　③　浬　往復、片道の別
回航日数等　時期　／　→　／　（　期）　回航方式　方式

	被回航船舶	回航用引船	摘要
運転時間	④＝ ③/①	⑦＝ ③/① ＋ ③/②	小数１位切上げ
運転日数	⑤＝ ④/16	⑧＝ ⑦/16	小数２位四捨五入
供用日数	⑥＝⑤×1.30＋2	⑨＝⑧×1.30	0.1 未満・・・切捨て 0.1～0.6・・・0.5日 0.6 以上・・・1.0日

(1)艤装費
艤装費＝被回航船舶購入価格⑩ × 艤装費率　（小数１位切捨て）

(2)燃料費
燃料費＝{時間当たり燃料消費量（雑品含む）×運転時間数⑦}× 重油Ａ単価
（{ }は小数１位四捨五入、全体は小数１位切捨て）

(3)労務費

	職種	乗組員	11時間単価	乗船手当	摘要
引船	高級船員	A_1 人	B_1 円	C_1 円	11時間単価は２交代制の場合の労務単価の例による。（第１部第２章１節２－１－２労務単価の補正）
	普通船員	A_2 人	B_2 円	C_2 円	
上乗り	船団長	１ 人	B_3 円	C_3 円	被回航船舶の主作業船のみ
	普通船員	２ 人	B_4 円	C_4 円	

合計
賃金＝（A_1×B_1＋A_2×B_2）×⑨　（小数１位切捨て）
乗船手当＝（A_1×C_1＋A_2×C_2）×⑨　（小数１位切捨て）

(4)上乗費
合計
賃金＝（B_3×１＋B_4×２）×（⑤×1.30）＊　（小数１位切捨て）
乗船手当＝（C_3×１＋C_4×２）×（⑤×1.30）＊　（小数１位切捨て）

＊（⑤×1.30）：（0.1未満を切捨て、0.1以上0.6未満を0.5日、0.6以上を１日として0.5日単位にする。）

(5)損料
合計
回航用引船損料＝（運転損料×運転時間⑦）＋（供用損料×供用日数⑨）
（（　）内は各々、小数１位切捨て）
被回航船舶損料＝供用損料×供用日数⑥　（小数１位切捨て）

(6)保険料　保険金額⑪＝被回航船舶購入価格⑩×51.0/100

被回航船舶船種		基本料率⑫
回航距離	浬	

普通期間保険料
保険料 ＝ 保険金額⑪ × 基本料率⑫ × 回航距離係数

摘要

（水産庁準拠）

損料基準の償却費率改定に伴う修正

水産基盤整備事業（漁場）設計積算基準(令和６年１０月)　新旧対照表（令和６年１０月１日以降積算基準日適用）

掲載頁

第５章
間接工事費の施工歩掛

１節
回航・えい航費
P5-1-(5)

現行

付属資料－３　総トン数一覧表

１　被回航船舶総トン数一覧表

被回航船舶	規格		標準形状 (L)　(B)　(D)	総トン数 (ｔ)	摘要
ポンプ浚渫船	鋼Ｄ	1,350PS型	36.0×11.2×2.7	380	
	〃	2,250 〃	44.0×13.4×3.3	690	
	〃	3,200 〃	50.0×15.0×3.8	1,000	
	〃	4,000 〃	54.0×16.0×4.0	1,200	
	〃	6,000 〃	64.0×17.5×4.4	1,700	
	〃	8,000 〃	72.0×19.0×4.8	2,300	
バージアンローダ船	鋼Ｄ	420PS型	27.0× 9.0×2.4	210	
	〃	1,000 〃	33.0×10.5×2.6	320	
	〃	1,600 〃	39.0×11.5×2.8	440	
	〃	2,000 〃	43.0×12.5×3.0	570	
	〃	2,500 〃	48.0×13.5×3.1	710	
空気圧送船	鋼Ｄ	2,000PS型	35.0×22.0×2.5	680	
	〃	3,000 〃	50.0×25.0×3.0	1,320	
	〃	6,000 〃	60.0×25.0×3.8	2,010	
グラブ浚渫船（普通地盤用）	鋼Ｄ	２．５‰	23.0×10.0×2.2	180	
	〃	５．０〃	30.0×13.2×2.7	380	
	〃	９．０〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃	１５．０〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃	２３．０〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（硬土盤用）	鋼Ｄ	３．５‰	30.0×13.2×2.7	380	
	〃	５．５〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃	７．５〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃	１１．５〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（岩盤用）	鋼Ｄ	３．５‰	30.0×13.2×2.7	380	
	〃	５．５〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃	７．５〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
バックホウ浚渫船	鋼Ｄ	１．０‰	20.0× 8.9×1.8	110	
	〃	２．０〃	24.0×10.4×2.1	190	
起重機船（非航旋回）	鋼Ｄ	４０ｔ吊	27.3×12.4×2.3	270	
	〃	５０〃	29.5×13.4×2.5	350	
	〃	７０〃	33.0×15.0×2.8	490	
	〃	８０〃	34.5×15.8×2.9	560	
	〃	１００〃	37.0×16.8×3.1	680	
	〃	１２０〃	39.5×18.0×3.3	830	
	〃	１５０〃	43.0×20.0×3.4	1,000	
	〃	２００〃	47.1×21.6×3.8	1,400	
	〃	２５０〃	50.8×23.3×4.1	1,700	
	〃	３００〃			
起重機船（非航固定）	鋼ＤＥ	３００〃	50.0×22.7×4.1	1,600	
	〃	５００〃	60.0×27.3×5.0	2,900	
	〃	１，４００〃	85.0×36.0×6.0	9,400	
	〃	２，０００〃	88.0×40.0×7.2	8,900	
	〃	２，２００〃	90.4×41.1×7.4	9,700	
	〃	３，０００〃	100.0×45.5×8.3	13,000	
杭打船	Ｄ－２５		22.0×11.0×2.2	190	
	〃－４５		26.0×13.0×2.6	310	
	〃－７２		36.0×18.0×3.6	820	
	〃－８０		46.0×19.0×3.6	1,070	
	Ｈ－６５		26.0×13.0×2.6	310	
	〃－１２５		36.0×18.0×3.6	820	
	〃－１５０		46.0×19.0×3.6	1,070	

改定

付属資料－３　総トン数一覧表

１　被回航船舶総トン数一覧表

被回航船舶	規格		標準形状 (L)　(B)　(D)	総トン数 (ｔ)	摘要
ポンプ浚渫船	鋼Ｄ	1,350PS型	36.0×11.2×2.7	380	
	〃	2,250 〃	44.0×13.4×3.3	690	
	〃	3,200 〃	50.0×15.0×3.8	1,000	
	〃	4,000 〃	54.0×16.0×4.0	1,200	
	〃	6,000 〃	64.0×17.5×4.4	1,700	
	〃	8,000 〃	72.0×19.0×4.8	2,300	
バージアンローダ船	鋼Ｄ	420PS型	27.0× 9.0×2.4	210	
	〃	1,000 〃	33.0×10.5×2.6	320	
	〃	1,600 〃	39.0×11.5×2.8	440	
	〃	2,000 〃	43.0×12.5×3.0	570	
	〃	2,500 〃	48.0×13.5×3.1	710	
空気圧送船	鋼Ｄ	2,000PS型	35.0×22.0×2.5	680	
	〃	3,000 〃	50.0×25.0×3.0	1,320	
	〃	6,000 〃	60.0×25.0×3.8	2,010	
グラブ浚渫船（普通地盤用）	鋼Ｄ	２．５‰	23.0×10.0×2.2	180	
	〃	５．０〃	30.0×13.2×2.7	380	
	〃	９．０〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃	１５．０〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃	２３．０〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（硬土盤用）	鋼Ｄ	３．５‰	30.0×13.2×2.7	380	
	〃	５．５〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃	７．５〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
	〃	１１．５〃	56.0×23.5×4.5	2,100	
グラブ浚渫船（岩盤用）	鋼Ｄ	３．５‰	30.0×13.2×2.7	380	
	〃	５．５〃	42.0×18.5×3.5	1,000	
	〃	７．５〃	50.0×21.0×3.9	1,450	
バックホウ浚渫船	鋼Ｄ	１．０‰	20.0× 8.9×1.8	110	
	〃	２．０〃	24.0×10.4×2.1	190	
起重機船（非航旋回）	鋼Ｄ	４０ｔ吊	27.3×12.4×2.3	270	
	〃	５０〃	29.5×13.4×2.5	350	
	〃	７０〃	33.0×15.0×2.8	490	
	〃	８０〃	34.5×15.8×2.9	560	
	〃	１００〃	37.0×16.8×3.1	680	
	〃	１２０〃	39.5×18.0×3.3	830	
	〃	１５０〃	43.0×20.0×3.4	1,000	
	〃	２００〃	47.1×21.6×3.8	1,400	
	〃	２５０〃	50.8×23.3×4.1	1,700	
	〃	３００〃			
起重機船（非航固定）	鋼ＤＥ	３００〃	50.0×22.7×4.1	1,600	
	〃	５００〃	60.0×27.3×5.0	2,900	
	〃	１，４００〃	85.0×36.0×6.0	9,400	
	〃	２，０００〃	88.0×40.0×7.2	8,900	
	〃	２，２００〃	90.4×41.1×7.4	9,700	
	〃	３，０００〃	100.0×45.5×8.3	13,000	
杭打船	Ｈ－６５		26.0×13.0×2.6	310	
	〃－１２５		36.0×18.0×3.6	820	
	〃－１５０		46.0×19.0×3.6	1,070	

摘要

（水産庁準拠）

杭打船（ディーゼルハンマ式）損料削除に伴う記載の削除）

水産基盤整備事業（漁場）設計積算基準(令和６年１０月）　新旧対照表（令和６年１０月１日以降積算基準日適用）

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 １節 回航・えい航費 P5-1-(6)			（水産庁準拠） サンドドレーン船損料削除に伴う記載の削除

現行

被回航船舶	規格	標準形状 (L) (B) (D)	総トン数 (t)	摘要
サンドドレーン船	６連装　鋼DE　625kw	32.0×20.0×3.0	680	
	12 〃　〃DE 3,052kw	45.0×23.0×3.9	1,400	
サンドコンパクション船	３連装　鋼ＤＥ　３５ｍ	45.0×18.0× 3.5	1,000	
	〃　〃　４０〃	45.5×20.7× 3.8	1,300	
	〃　〃　４５〃	50.0×22.8× 4.2	1,700	
	〃　〃　５０〃	55.5×23.8× 4.3	2,000	
	〃　〃　５５〃	60.0×25.2× 4.5	2,400	
ガットバージ	鋼　１，０００‰積	44.9×14.6× 4.1	940	
土運船	鋼　１００‰積	30.5× 8.2× 3.1	270	
	〃　３００‰〃	35.5× 9.0× 3.3	370	
	〃　６５０‰〃	43.0×10.5× 3.7	590	
	〃　１，３００‰〃	59.0×13.0× 4.5	1,200	
台船	鋼　１００ｔ積	18.0× 7.0× 1.6	70	
	〃　１５０〃	21.0× 9.0× 1.7	110	
	〃　２００〃	24.0×10.0× 1.8	150	
	〃　３００〃	26.0×11.0× 2.2	220	
	〃　４００〃	29.0×12.0× 2.3	280	
	〃　５００〃	32.0×13.0× 2.4	350	
	〃　７００〃	37.0×15.0× 2.6	510	
	〃　１，０００〃	42.0×16.0× 3.0	710	
	〃　１，５００〃	48.0×17.0× 3.4	980	
	〃　２，０００〃	54.0×18.0× 3.8	1,300	
フローティングドック	鋼　１，３００ｔ積	32.0×24.0× 9.5	2,600	
	〃　１，５００〃	34.0×26.0×10.0	3,100	
	〃　２，０００〃	37.0×29.0×11.5	4,400	
	〃　２，５００〃	39.0×31.0×13.0	5,500	
	〃　３，２００〃	43.0×33.0×13.7	6,900	
	〃　４，０００〃	48.0×33.5×14.5	8,200	
	〃　６，０００〃	56.0×40.5×16.5	13,000	
	〃　７，０００〃	58.2×41.9×17.9	15,000	
ドルフィンドック	鋼　１，３００ｔ積	24.2×23.2× 4.7	930	
	鋼　１，７００〃	26.6×24.9× 6.0	1,400	
	鋼　２，５００〃	30.5×27.4× 8.3	2,450	
コンクリートミキサー船	（バッチ式）			
	鋼DE 1.0 ‰ 338kW	37.4×16.2× 3.3	710	
	〃 1.5 〃 530kW	44.2×18.3× 3.8	1,090	
	〃 2.0 〃 633kW	49.8×19.9× 4.3	1,500	
	〃 2.5 〃 736kW	54.6×21.3× 4.6	1,890	
	（コンティニアス式）			
	鋼DE 25 型 177kW	30.0×13.0× 2.8	390	
	〃 45 〃 279kW	35.0×15.0× 3.0	560	
	〃 90 〃 434kW	43.0×20.0× 3.6	1,100	
深層混合処理船	2.2㎡ 809kW	36.0×15.5× 2.8	560	
	4.6㎡ 2,059kW	52.8×24.2× 4.0	1,800	
	5.7㎡ 3,457kW	54.6×28.3× 4.3	2,300	

改定

被回航船舶	規格	標準形状 (L) (B) (D)	総トン数 (t)	摘要
サンドコンパクション船	３連装　鋼ＤＥ　３５ｍ	45.0×18.0× 3.5	1,000	
	〃　〃　４０〃	45.5×20.7× 3.8	1,300	
	〃　〃　４５〃	50.0×22.8× 4.2	1,700	
	〃　〃　５０〃	55.5×23.8× 4.3	2,000	
	〃　〃　５５〃	60.0×25.2× 4.5	2,400	
ガットバージ	鋼　１，０００‰積	44.9×14.6× 4.1	940	
土運船	鋼　１００‰積	30.5× 8.2× 3.1	270	
	〃　３００‰〃	35.5× 9.0× 3.3	370	
	〃　６５０‰〃	43.0×10.5× 3.7	590	
	〃　１，３００‰〃	59.0×13.0× 4.5	1,200	
台船	鋼　１００ｔ積	18.0× 7.0× 1.6	70	
	〃　１５０〃	21.0× 9.0× 1.7	110	
	〃　２００〃	24.0×10.0× 1.8	150	
	〃　３００〃	26.0×11.0× 2.2	220	
	〃　４００〃	29.0×12.0× 2.3	280	
	〃　５００〃	32.0×13.0× 2.4	350	
	〃　７００〃	37.0×15.0× 2.6	510	
	〃　１，０００〃	42.0×16.0× 3.0	710	
	〃　１，５００〃	48.0×17.0× 3.4	980	
	〃　２，０００〃	54.0×18.0× 3.8	1,300	
フローティングドック	鋼　１，３００ｔ積	32.0×24.0× 9.5	2,600	
	〃　１，５００〃	34.0×26.0×10.0	3,100	
	〃　２，０００〃	37.0×29.0×11.5	4,400	
	〃　２，５００〃	39.0×31.0×13.0	5,500	
	〃　３，２００〃	43.0×33.0×13.7	6,900	
	〃　４，０００〃	48.0×33.5×14.5	8,200	
	〃　６，０００〃	56.0×40.5×16.5	13,000	
	〃　７，０００〃	58.2×41.9×17.9	15,000	
ドルフィンドック	鋼　１，３００ｔ積	24.2×23.2× 4.7	930	
	鋼　１，７００〃	26.6×24.9× 6.0	1,400	
	鋼　２，５００〃	30.5×27.4× 8.3	2,450	
コンクリートミキサー船	（バッチ式）			
	鋼DE 1.0 ‰ 338kW	37.4×16.2× 3.3	710	
	〃 1.5 〃 530kW	44.2×18.3× 3.8	1,090	
	〃 2.0 〃 633kW	49.8×19.9× 4.3	1,500	
	〃 2.5 〃 736kW	54.6×21.3× 4.6	1,890	
	（コンティニアス式）			
	鋼DE 25 型 177kW	30.0×13.0× 2.8	390	
	〃 45 〃 279kW	35.0×15.0× 3.0	560	
	〃 90 〃 434kW	43.0×20.0× 3.6	1,100	
深層混合処理船	2.2㎡ 809kW	36.0×15.5× 2.8	560	
	4.6㎡ 2,059kW	52.8×24.2× 4.0	1,800	
	5.7㎡ 3,457kW	54.6×28.3× 4.3	2,300	

水産基盤整備事業（漁場）設計積算基準（令和６年１０月）　新旧対照表（令和６年１０月１日以降積算基準日適用）

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 ２節 運搬費 目次（１枚目）	２節　運　搬　費 １　総　　則 ---------- ５－２－１ １－１　適用範囲 ---------- ５－２－１ １－２　積算ツリー ---------- ５－２－１ １－３　積算フロー ---------- ５－２－１ １－４　標準的な積算手順 ---------- ５－２－１ ２　建設機械器具等運搬費 ---------- ５－２－２ ２－１　適用範囲 ---------- ５－２－２ ２－２　施工フロー ---------- ５－２－２ ２－３　施工方式 ---------- ５－２－２ ２－４　運搬 ---------- ５－２－４ ３　仮設材等運搬 ---------- ５－２－１１ ３－１　適用範囲 ---------- ５－２－１１ ３－２　施工フロー ---------- ５－２－１１ ３－３　仮設材等運搬 ---------- ５－２－１１ 参考資料－１　仮設鋼材の輸送起算点 ---------- ５－２－１５ 参考資料－２　離島における重建設機械輸送費の積算について ---------- ５－２－１６	２節　運　搬　費 １　総　　則 ---------- ５－２－１ １－１　適用範囲 ---------- ５－２－１ １－２　積算ツリー ---------- ５－２－１ １－３　積算フロー ---------- ５－２－１ １－４　標準的な積算手順 ---------- ５－２－１ ２　建設機械器具等運搬費 ---------- ５－２－２ ２－１　適用範囲 ---------- ５－２－２ ２－２　施工フロー ---------- ５－２－２ ２－３　施工方式 ---------- ５－２－２ ２－４　運搬 ---------- ５－２－４ ３　仮設材等運搬 ---------- ５－２－１１ ３－１　適用範囲 ---------- ５－２－１１ ３－２　施工フロー ---------- ５－２－１１ ３－３　仮設材等運搬 ---------- ５－２－１１ 参考資料－１　仮設鋼材の輸送起算点 ---------- ５－２－１６ 参考資料－２　離島における重建設機械輸送費の積算について ---------- ５－２－１７	（水産庁準拠） ページ番号の修正

水産基盤整備事業（漁場）設計積算基準(令和６年１０月）　新旧対照表（令和６年１０月１日以降積算基準日適用）

掲載頁

第５章
間接工事費の施工歩掛

２節
運搬費
P5-2-8

現行

表３．１　基本運賃表

規格	機械名	規格	20km以下（円）	50km以下	100km以下	150km以下	200km以下	200kmを超え20km毎加算
20t車以上30t車以下	路面切削機	2.0m	62,500	76,000	98,000	120,500	142,500	8,900
	ｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞ	深0.6m幅2.0m						
	ｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞ	深1.2m幅2.0m						
	自走式破砕機	クラッシャー寸法 開450mm 幅925mm						
	油圧式杭圧入引抜機	鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用						
	バックホウ（超ロングアーム型）	山積0.4m³／平積0.3m³						
	各種	―						

注）1.450kmを超える場合は別途考慮する。
　　2.誘導車、誘導員の費用を含んでいる。

表３．２　建設機械運搬方法

機械名	規格	車載 車種	車載 機械質量（t）	備考
路面切削機（ホイール式・廃材積込装置付）	2.0m	ﾄﾚｰﾗ	28.50	
スタビライザ（路床改良用）	深0.6m　幅2.0m	ﾄﾚｰﾗ	23.00	
スタビライザ（路床改良用）	深1.2m　幅2.0m	ﾄﾚｰﾗ	24.70	
自走式破砕機	クラッシャー寸法　開450mm／幅925mm	ﾄﾚｰﾗ	30.00	
油圧式杭圧入引抜機	鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用	ﾄﾚｰﾗ	29.70	
バックホウ（超ロングアーム型）	山積0.4m³／平積0.3m³	ﾄﾚｰﾗ	22.00	

注）本表に掲載のある建設機械については、分解・組立の必要はない

４）代価表

（１）分解組立運搬　１式当り　［Ｊ２０３１０］

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝまたはｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝまたはﾘﾌﾀｰ	（油）　t吊 せり上げ能力　t	日		標準運転時間
特殊作業員		人		
運搬費等率		%		

注）１．クレーンは、現場条件により大型規格を使用できる。
　　２．クレーン規格、運転日数、労務歩掛、運搬費等率は、別表による。
　　３．リフターは、供用１日あたり賃料とする。

（２）分解組立　１式当り　［Ｊ２０３１２］

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝまたはｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝまたはﾘﾌﾀｰ	（油）　t吊 せり上げ能力　t	日		標準運転時間 分解・組立用クレーン
特殊作業員		人		
雑材料		%		労務費、分解・組立用クレーン運転費の%

注）１．本歩掛は、分解・組立のみを計上する際に適用する。
　　２．クレーンは、現場条件により大型規格が使用できる。
　　３．クレーン規格、運転日数、労務歩掛、雑材料率は、別表による。
　　４．リフターは、供用１日あたり賃料とする。

（３）運搬　１式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
貨物自動車運賃		台		

改定

表３．１　基本運賃表

規格	機械名	規格	20km以下（円）	50km以下	100km以下	150km以下	200km以下	200kmを超え20km毎加算
20t車以上30t車以下	路面切削機	2.0m	71,000	87,000	112,000	137,000	163,000	10,200
	ｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞ	深0.6m幅2.0m						
	ｽﾀﾋﾞﾗｲｻﾞ	深1.2m幅2.0m						
	自走式破砕機	クラッシャー寸法 開450mm 幅925mm						
	油圧式杭圧入引抜機	鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用						
	バックホウ（超ロングアーム型）	山積0.4m³／平積0.3m³						
	各種	―						

注）1.450kmを超える場合は別途考慮する。
　　2.誘導車、誘導員の費用を含んでいる。

表３．２　建設機械運搬方法

機械名	規格	車載 車種	車載 機械質量（t）	備考
路面切削機（ホイール式・廃材積込装置付）	2.0m	ﾄﾚｰﾗ	28.50	
スタビライザ（路床改良用）	深0.6m　幅2.0m	ﾄﾚｰﾗ	23.00	
スタビライザ（路床改良用）	深1.2m　幅2.0m	ﾄﾚｰﾗ	24.70	
自走式破砕機	クラッシャー寸法　開450mm／幅925mm	ﾄﾚｰﾗ	30.00	
油圧式杭圧入引抜機	鋼矢板Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ型用	ﾄﾚｰﾗ	29.70	
バックホウ（超ロングアーム型）	山積0.4m³／平積0.3m³	ﾄﾚｰﾗ	22.00	

注）本表に掲載のある建設機械については、分解・組立の必要はない

４）代価表

（１）分解組立運搬　１式当り　［Ｊ２０３１０］

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝまたはｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝまたはﾘﾌﾀｰ	（油）　t吊 せり上げ能力　t	日		標準運転時間
特殊作業員		人		
運搬費等率		%		

注）１．クレーンは、現場条件により大型規格を使用できる。
　　２．クレーン規格、運転日数、労務歩掛、運搬費等率は、別表による。
　　３．リフターは、供用１日あたり賃料とする。

（２）分解組立　１式当り　［Ｊ２０３１２］

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
ﾗﾌﾃﾚｰﾝｸﾚｰﾝまたはｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝまたはﾘﾌﾀｰ	（油）　t吊 せり上げ能力　t	日		標準運転時間 分解・組立用クレーン
特殊作業員		人		
雑材料		%		労務費、分解・組立用クレーン運転費の%

注）１．本歩掛は、分解・組立のみを計上する際に適用する。
　　２．クレーンは、現場条件により大型規格が使用できる。
　　３．クレーン規格、運転日数、労務歩掛、雑材料率は、別表による。
　　４．リフターは、供用１日あたり賃料とする。

（３）運搬　１式当り

名称	形状寸法	単位	数量	摘要
貨物自動車運賃		台		

摘要

（水産庁準拠）

基本運賃の改定

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 ２節 運搬費 P5-2-9			重機選別の加除

現行

施工単価コード	Ｊ２０３１０

施工単価名称	重建設機械 分解・組立・運搬	出力数量	1	単位	回
注意事項	１．適用にあたっては、２－４－２を参照。				

条件	条件名称	条件値	条件内容
A	施工区分	1	分解組立＋輸送（往復）
		2	分解又は組立＋輸送（片道）
B	機種区分	1	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ20ｔ級以上21t級以下
		2	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ21ｔ級を超え44t級以下
		3	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ44ｔ級を超え63t級以下
		4	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積1.0m3以上山積1.4m3以下 （油圧ｸﾗﾑｼｪﾙ・ﾃﾚｽｺﾋﾟｯｸ0.4m3以上0.6m3以下）
		5	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積1.4m3を超え山積2.1m3以下
		6	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系16ｔ吊以上35t吊以下（ｸﾗﾑｼｪﾙ平積0.6m3含む）
		7	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系35ｔ吊を超え80t吊以下 （ｸﾗﾑｼｪﾙ平積0.6m3を超え平積2.0m3以下）
		8	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系80ｔ吊を超え150t吊以下 （ｸﾗﾑｼｪﾙ平積2.0m3を超え平積3.0m3以下）
		9	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系150ｔ吊を超え300t吊以下
		10	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系80ｔ吊以上120t吊以下
		11	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系120ｔ吊を超え160t吊以下
		12	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系160ｔ吊を超え360t吊以下
		13	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系360ｔ吊を超え500t吊以下
		14	ｸﾛｰﾗ式杭打機　機械質量20ｔ以上60t以下
		15	ｸﾛｰﾗ式杭打機　機械質量60ｔを超え100t以下
		16	ｸﾛｰﾗ式杭打機　機械質量100ｔを超え150t以下
		17	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（ｸﾛｰﾗ式）
		18	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（据置式・全回転式）
		19	地盤改良機械機械質量20t以上60ｔ以下
		20	地盤改良機械機械質量60tを超え120ｔ以下
		21	地盤改良機械機械質量120tを超え170ｔ以下

改定

施工単価コード	Ｊ２０３１０

施工単価名称	重建設機械 分解・組立・運搬	出力数量	1	単位	回
注意事項	１．適用にあたっては、（運）２－４－２を参照。				

条件	条件名称	条件値	条件内容
A	施工区分	1	分解組立＋輸送（往復）
		2	分解又は組立＋輸送（片道）
B	機種区分	1	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ21t級以下
		2	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ44t級以下
		3	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積1.4m3以下
		4	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積2.1m3以下
		5	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系35t吊以下
		6	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系80t吊以下
		7	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系150t吊以下
		8	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系300t吊以下
		9	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系120t吊以下
		10	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系160t吊以下
		11	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系360t吊以下
		12	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系550t吊以下
		13	ｸﾛｰﾗ式杭打機　60t以下
		14	ｸﾛｰﾗ式杭打機　100t以下
		15	ｸﾛｰﾗ式杭打機　150t以下
		16	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（ｸﾛｰﾗ式）
		17	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（スキッド式）
		18	地盤改良機械（中層混合処理機）　60t以下
		19	地盤改良機械（中層混合処理機）　120t以下
		20	地盤改良機械（その他）　60t以下
		21	地盤改良機械（その他）　120t以下
		22	地盤改良機械（その他）180t以下

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 ２節 運搬費 P5-2-10			重機選別の加除

現行

施工単価コード	Ｊ２０３１２

施工単価名称	重建設機械 分解・組立	出力数量	1	単位	回
注意事項	１．適用にあたっては、２－４－２を参照。				

条件	条件名称	条件値	条件内容
A	施工区分	1	分解組立
		2	分解又は組立
B	機種区分	1	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ20ｔ級以上21t級以下
		2	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ21ｔ級を超え44t級以下
		3	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ44ｔ級を超え63t級以下
		4	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積1.0㎥以上山積1.4㎥以下 （油圧ｸﾗﾑｼｪﾙ・ﾃﾚｽｺﾋﾟｯｸ0.4㎥以上0.6㎥以下）
		5	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積1.4㎥を超え山積2.1㎥以下
		6	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系16ｔ吊以上35t吊以下（ｸﾗﾑｼｪﾙ平積0.6㎥含む）
		7	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系35ｔ吊を超え80t吊以下 （ｸﾗﾑｼｪﾙ平積0.6㎥を超え平積2.0㎥以下）
		8	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系80ｔ吊を超え150t吊以下 （ｸﾗﾑｼｪﾙ平積2.0㎥を超え平積3.0㎥以下）
		9	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系150ｔ吊を超え300t吊以下
		10	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系80ｔ吊以上120t吊以下
		11	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系120ｔ吊を超え160t吊以下
		12	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系160ｔ吊を超え360t吊以下
		13	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系360ｔ吊を超え500t吊以下
		14	ｸﾛｰﾗ式杭打機　機械質量20ｔ以上60t以下
		15	ｸﾛｰﾗ式杭打機　機械質量60ｔを超え100t以下
		16	ｸﾛｰﾗ式杭打機　機械質量100ｔを超え150t以下
		17	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（ｸﾛｰﾗ式）
		18	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（据置式・全回転式）
		19	地盤改良機械機械質量20t以上60ｔ以下
		20	地盤改良機械機械質量60tを超え120ｔ以下
		21	地盤改良機械機械質量120tを超え170ｔ以下

改定

施工単価コード	Ｊ２０３１２

施工単価名称	重建設機械 分解・組立	出力数量	1	単位	回
注意事項	１．適用にあたっては、（運）２－４－２を参照。				

条件	条件名称	条件値	条件内容
A	施工区分	1	分解組立
		2	分解又は組立
B	機種区分	1	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ21t級以下
		2	ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞ44t級以下
		3	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積1.4m3以下
		4	ﾊﾞｯｸﾎｳ系山積2.1m3以下
		5	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系35t吊以下
		6	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系80t吊以下
		7	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系150t吊以下
		8	ｸﾛｰﾗｸﾚｰﾝ系300t吊以下
		9	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系120t吊以下
		10	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系160t吊以下
		11	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系360t吊以下
		12	ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ系550t吊以下
		13	ｸﾛｰﾗ式杭打機　60t以下
		14	ｸﾛｰﾗ式杭打機　100t以下
		15	ｸﾛｰﾗ式杭打機　150t以下
		16	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（ｸﾛｰﾗ式）
		17	ｵｰﾙｹｰｼﾝｸﾞ掘削機（スキッド式）
		18	地盤改良機械（中層混合処理機）　60t以下
		19	地盤改良機械（中層混合処理機）　120t以下
		20	地盤改良機械（その他）　60t以下
		21	地盤改良機械（その他）　120t以下
		22	地盤改良機械（その他）180t以下

<table>
<tr><th>掲載頁</th><th>現行</th><th>改定</th><th>摘要</th></tr>
<tr>
<td>第５章
間接工事費の施工歩掛

２節
運搬費
P5-2-13</td>
<td>２）積込、取卸費
（１）仮設材の積込・取卸費は表４による。
（２）仮設材等（鋼矢板、Ｈ型鋼、覆工板、敷鉄板等）の積込・取卸費とする。
また、敷鉄板については、第３章６節 仮設工　参考資料－１の敷鉄板設置撤去歩掛で計上した敷鉄板を対象とする。

表４　積込取卸費
<table><tr><th>場　所</th><th>作　業</th><th>費用（参考･円／ｔ）</th></tr><tr><td>基　地</td><td>積　込</td><td>（７５０）</td></tr><tr><td rowspan="2">現　場</td><td>取　卸</td><td>（７５０）</td></tr><tr><td>積　込</td><td>（７５０）</td></tr><tr><td>基　地</td><td>取　卸</td><td>（７５０）</td></tr></table></td>
<td>２）積込、取卸費
（１）仮設材の積込・取卸費は表４による。
（２）仮設材等（鋼矢板、Ｈ型鋼、覆工板、敷鉄板等）の積込・取卸費とする。
また、敷鉄板については、第３章３節 仮設工　参考資料－１の敷鉄板設置撤去歩掛で計上した敷鉄板を対象とする。

表４　積込取卸費
<table><tr><th>場　所</th><th>作　業</th><th>費用（参考･円／ｔ）</th></tr><tr><td>基　地</td><td>積　込</td><td>（７５０）</td></tr><tr><td rowspan="2">現　場</td><td>取　卸</td><td>（７５０）</td></tr><tr><td>積　込</td><td>（７５０）</td></tr><tr><td>基　地</td><td>取　卸</td><td>（７５０）</td></tr></table></td>
<td>参照節の変更</td>
</tr>
</table>

掲載頁	現行	改定	摘要
第５章 間接工事費の施工歩掛 ２節 運搬費 P5-2-14			頁分割 記載の追記 条件値・条件内容の変更

現行

施工単価コード　Ｊ２０３１４

施工単価名称	仮設材運搬	出力数量	1	単位	t

注意事項　１．適用にあたっては、３－３－２ を参照。
２．この施工単価は、仮設材（鋼矢板、Ｈ形鋼、覆工板、敷鉄板等）の運搬に適用する。
３．Ｄ、Ｅ条件の入力に注意すること。

条件	条件名称	条件値	条件内容
A	距離区分（片道距離）	1	10 km迄
		2	20 〃
		3	30 〃
		4	40 〃
		5	50 〃
		6	60 〃
		7	70 〃
		8	80 〃
		9	90 〃
		10	100 〃
		11	110 〃
		12	120 〃
		13	130 〃
		14	140 〃
		15	150 〃
		16	160 〃
		17	170 〃
		18	180 〃
		19	190 〃
		20	200 〃
		21	220 〃
		22	240 〃
		23	260 〃
		24	280 〃
		25	300 〃
		26	320 km迄
		27	340 〃
		28	360 〃
		29	380 〃
		30	400 〃
		31	420 〃
		32	440 〃
		33	460 〃
		34	480 〃
		35	500 〃
B	製品長区分	1	12m以内のもの
		2	12m超15m以下のもの
		3	15m超のもの
C	輸送区分	1	往復輸送（搬入・搬出）
		2	片道輸送
D	往路割増率	実数値	往路の（１＋割増率の合計）を実数値で入力する （例：２割増のとき、1.2と入力）
E	復路割増率	△	片道輸送（Ｃ＝２）の時、スペース
		実数値	復路の（１＋割増率の合計）を実数値で入力する （例：２割増のとき、1.2と入力）

改定

施工単価コード　Ｊ２０３１４

施工単価名称	仮設材等運搬	出力数量	1	単位	t

注意事項　１．適用にあたっては、（運）３－３－２ を参照。
２．この施工単価は、仮設材（鋼矢板、Ｈ形鋼、覆工板、敷鉄板等）の運搬に適用する。
３．Ｄ、Ｅ条件の入力に注意すること。

条件	条件名称	条件値	条件内容
A	距離区分（片道距離）	1	10 km迄
		2	20 〃
		3	30 〃
		4	40 〃
		5	50 〃
		6	60 〃
		7	70 〃
		8	80 〃
		9	90 〃
		10	100 〃
		11	110 〃
		12	120 〃
		13	130 〃
		14	140 〃
		15	150 〃
		16	160 〃
		17	170 〃
		18	180 〃
		19	190 〃
		20	200 〃
		21	220 〃
		22	240 〃
		23	260 〃
		24	280 〃
		25	300 〃
		26	320 km迄
		27	340 〃
		28	360 〃
		29	380 〃
		30	400 〃
		31	420 〃
		32	440 〃
		33	460 〃
		34	480 〃
		35	500 〃
B	製品長区分	1	12m以内のもの
		2	12m超15m以下のもの
		3	15m超のもの
C	輸送区分	1	往復輸送（搬入・搬出）
		2	搬入
		3	搬出

次のページに続く

水産基盤整備事業（漁場）設計積算基準(令和６年１０月）　新旧対照表（令和６年１０月１日以降積算基準日適用）

<table>
<tr><th>掲載頁</th><th>現行</th><th>改定</th><th>摘要</th></tr>
<tr>
<td>第５章
間接工事費の施工歩掛

２節
運搬費
P5-2-15</td>
<td></td>
<td>
<table>
<tr><th>条件</th><th>条件名称</th><th>条件値</th><th>条件内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｄ１</td><td rowspan="2">往路冬季割増</td><td>1</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>2</td><td>あり（２０%）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｄ２</td><td rowspan="2">往路深夜割増</td><td>1</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>2</td><td>あり（３０%）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｅ１</td><td rowspan="2">復路冬季割増</td><td>1</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>2</td><td>あり（２０%）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Ｅ２</td><td rowspan="2">往路深夜割増</td><td>1</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>2</td><td>あり（３０%）</td></tr>
</table>
</td>
<td>p14続き
条件の変更</td>
</tr>
</table>